

「ナレッジ×AI」で医師の働き方改革を推進

2024/9/13

アクセラテクノロジー株式会社

コンサルタント 村上美早紀

目次

- ・はじめに＜医療現場の現在＞
- ・ SolutionDeskの活用例



本ソリューションは東邦大学 医学部医学科薬理学講座との共同研究で開発しました。

(注) 医学部薬理学 教授, 医学博士 医師, 循環器専門医, 総合内科専門医

氏名：村上美早紀

- ・ 前職では、金融系ソフトウェアのSEとして要件定義から設計・開発・保守までを担当しておりました。現在は、保険会社や製造業をはじめ、様々なお客様の課題解決を支援しております。

はじめに <医療現場の現在>

今年4月から【医師の働き方改革】が施行されたが…

主に時間管理の徹底



緊急手術や
急患対応で
やむを得ず残業…

労働時間の制限 = 1人当たりの業務量が減る
➡他のスタッフに負担がかかる

現場を取り巻く全員が取り組むべき状況

実際に聞いたお困りごと



まずは勤怠管理の徹底！

はわかっているが、

どの業務もやらなければならない

どうしても時間外で対応することに…

実際に聞いたお困りごと

患者さんの対応が忙しくて、
そもそも業務を見直す時間がない…



実際に聞いたお困りごと



AIに興味はあるけれど、
医療現場でどのように使えるのか
よくわかっていない…

共通して聞くお困りごと～なにをどう改善すればいいのか？

院内でDX化が推奨されているけど、
実際にどこの部署が何に困っている
のかが明確になっていない

何社かこういったシステムの話
は聞いたけど、なんとなく難しそう



医療現場のタスクは、大きく「事務作業」と「本業」の2つ



医師	診察や診断、治療などの医療行為	臨床現場
	診察前の準備（診療ガイドラインの熟知） 専門医資格の取得や学術的な活動（論文執筆などの研究）など	事務作業



看護師	診察や手術の準備と補助、ナースコール対応、夜間巡回など	臨床現場
	手術器具の殺菌処理手順の確認、医療機器の設定・操作方法の確認など	事務作業



医事課	受付、会計、各診療科への案内など	現場
	診療報酬点数表の処理、当直表の作成など	事務作業

事前準備や書類作成などの事務的な作業に時間が奪われている

医師の働き方改革＝医療業務の生産性向上が必須



医師	診察や診断、治療などの医療行為	臨床現場
	診察前の準備（診療ガイドラインの熟知） 専門医資格の取得や学術的な活動（論文執筆などの研究）など	事務作業



看護師	診察や手術の準備と補助、ナースコール対応、夜間巡回など	臨床現場
	手術器具の殺菌処理手順の確認、医療機器の設定・操作方法の確認など	事務作業



医事課	受付、会計、各診療科への案内など	現場
	診療報酬点数表の処理、当直表の作成など	事務作業

AIで医療業務を支援し、本来の診療や研究などに時間を充てられる

本来自分がすべき作業にいかに専念できるようにするか

医師の働き方改革～背景と具体的施策～

- ・ 長時間労働による健康被害や医療ミス
 - ・ 高齢化社会による対応患者の増加による医療現場のひっ迫
- ➡ 時間管理の徹底（タスクシフトやタスクシェア）

いままでこなしてきた仕事を限られた時間で行わなければいけない

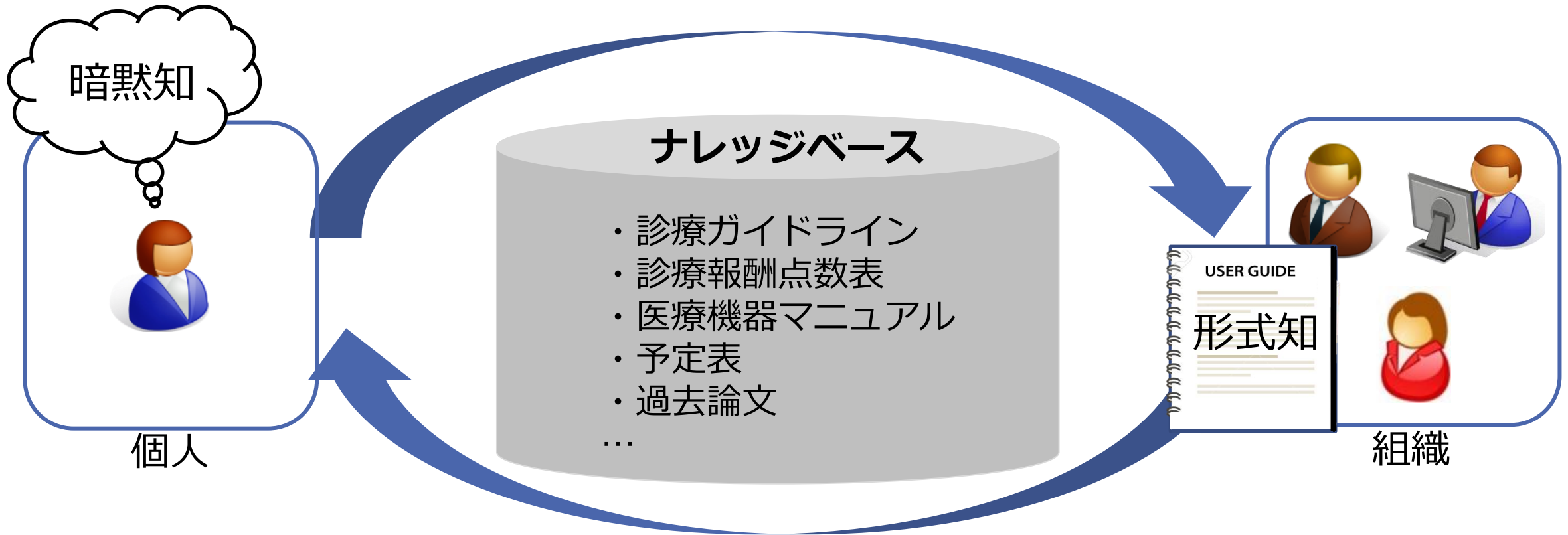


【AIに任せられる部分は任せる】



ナレッジマネジメントとは

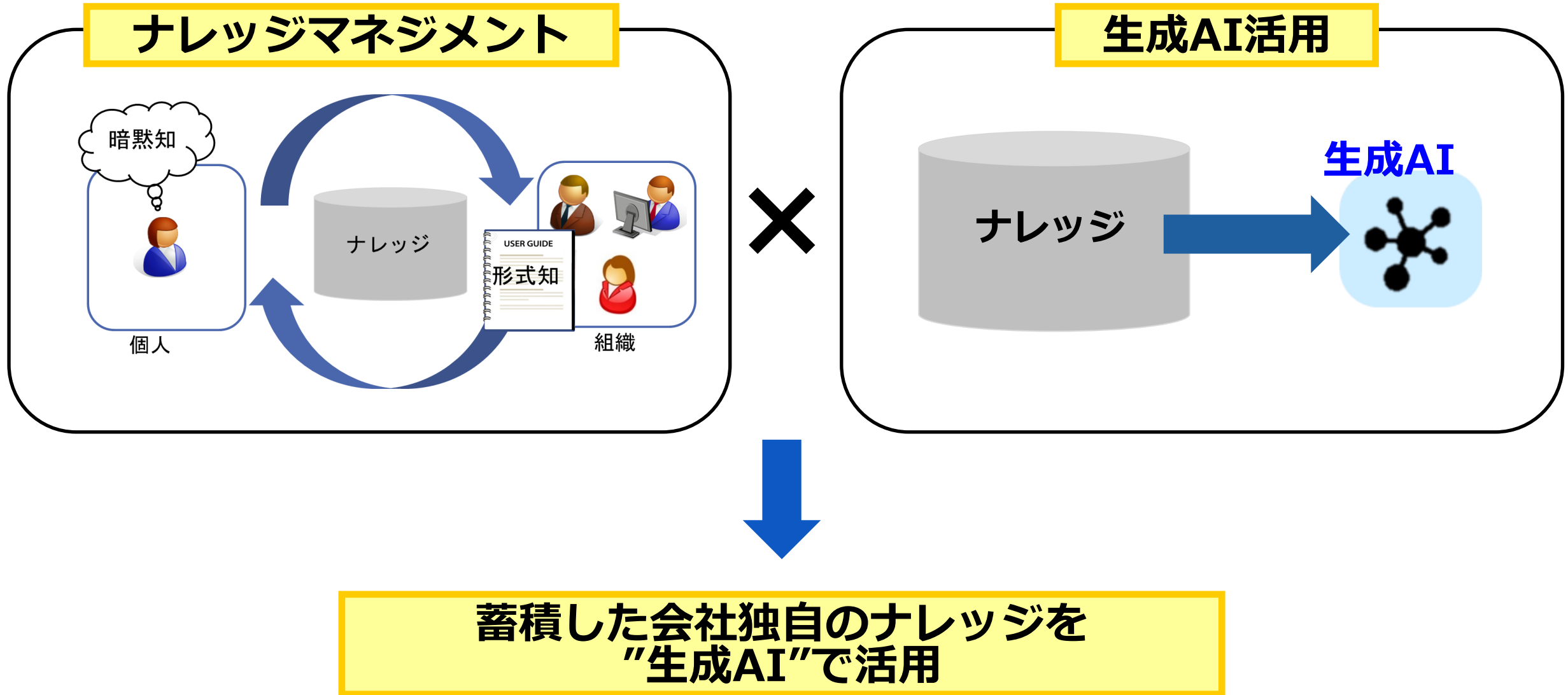
個人のノウハウを組織で共有できる状態に



組織の知識をメンバー個人が活用し業務遂行

ナレッジマネジメントによって個人・組織間のナレッジを共有

「ナレッジ×AI」で生産性向上



業務でAIを活用するポイント

医療現場ならではの専門知識を活用

- 一般的にWeb上でAIを使うこともできますが、そこでは一般的な回答しか得られません。現場ごとの独自のナレッジをAIに参照させることで、実際に役に立つ情報を活用できます。

ITリテラシーによらないAIの活用

- AIの指示文プロンプトをメニューから選べるようにすることで、システムが苦手な方でもAIを活用できます。

AIに嘘をつかせない

- 参照先のナレッジを確認できるようにすることで、AIの回答の確認を行うことができます。

医療現場にアプローチする「ナレッジ×AI」 ～SolutionDeskの活用例～

デモ動画の視聴

ガイドライン読解

- ・診療ガイドライン



医療事務補助

- ・当直表



- ・診療報酬点数表

臨床研究支援

- ・PubMedクエリ作成→英語論文を日本語で読み解き
- ・日本語でアイデア箇条書き→英語論文執筆へ



医療分野でのAI利用のポイント

医療現場ならではの専門知識を活用 ➡ 「ナレッジベースの活用」

- 病院独自のナレッジを参照させることで、実際に役に立つ情報を活用できます。
- 論文執筆では、過去論文をとことん調べることが大切です。英文であってもななめよみや比較などを簡単に調査できることが重要です。

ITリテラシーによらないAIの活用

➡ プロンプトメニューを病院独自の最適化・メニュー化

- いま自分が作業したい内容に沿って、迷わず業務に取り掛かることができます。

AIに嘘をつかせない ➡ 参照元リンクの表示

- 自分では思いつかなかった表現や考え方を教えてくれる優秀なAIですが、最終的にAIの回答の良し悪しを決めるのは人間です。AIの特徴も押さえながらうまく活用することが大切です。

まとめ

- ・「臨床現場」と「事務作業」の2つ
- ・ AIに任せられる部分は任せる
- ・ 医療現場ならではの専門知識を活用
- ・ ITリテラシーによらないAIの活用
- ・ AIに嘘をつかせない



**「ナレッジ×AI」で生産性を上げ
【医師の働き方改革】を実現します**

このソリューションを開発するにあたり、東邦大学 医学部医学科薬理学講座の皆様には多大なるご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

